

お茶の水女子大学リベラルアーツとFD公開シンポジウム

平成 21 年 2 月 12 日 (木)

文理融合リベラルアーツ科目を担当して

—担当教員によるパネル討議—

NPO インターンシップ [実習]

(「生活世界の安全保障」系列から)

パネラー 亀山 俊朗 (教育研究特設センター・講師)



2008年度第2回 文理融合リベラルアーツ FDシンポジウム
「学生と教員でつくる授業を目指して」
第2部 教員からみた文理融合リベラルアーツ
生活世界の安全保障(実習)
NPOインターンシップ

教育研究特設センター
亀山 俊朗

私からは、「生活世界の安全保障」系列の実習でありますNPOインターンシップについて、ご説明いたします。

お手元に、ちょっと重たいことになってしまったのですが、緑色の分厚い冊子「2008年度NPOインターンシップ NPO入門 成果報告書」というのをお配りしております。報告の中でも参照をお願いいたしますので、ぜひご覧になってください。

こちらの背表紙と下の方に書いてありますように、NPOインターンシップは、「コミュニケーションシステムの開発によるリスク社会への対応(CSD)」のプロジェクトで対応しています。担当講師として、私、亀山と、今日来場していますが、アソシエイトフェローとして*カトウ*さんと、もう一人、ティーチングアシスタントで*さがわ*さんという3人のスタッフで担当しました。

この報告書は、NPOインターンシップと共通教育科目で、先ほど前半の米澤さんの報告の中でもありましたが、NPOインターンシップを受講するに当たって、履修の条件となっています「NPO入門」という講義、これはLA科目ではないのですが、こちらのレポートと併せて成果報告書ということにしています。

内容は、最初の3分の1ぐらいが「NPOインターンシップ」の実習生の報告書。後半が「NPO入門」授業についてで、これも先ほど紹介がありましたが、仮想のNPOの事業計画というのを作ってもらったのです。これが大変面白くて、学生の中でも、ほかの学生のものを読みたいという要望がたくさんあったので、まとめて見たら、力作が多かったので、こんなに分厚くなって、重たくて、出来上がったのを見て、私もちょっとびびったのです。その他、協力していただいたNPOの情報とか、巻末にはインターンシップと入門の方の授業資料などが掲載されております。

本日の報告の内容を申し上げます。四つのパートです。最初「科目の沿革・概要」を申し上げて、続きまして、2点目として「本年度の特徴・新たな取り組み」。3点目として「本年度の成果」。4点目として問題点や課題を報告するという予定で行います。

前半でも、リベラルアーツとの関連というところが議論になっておりましたが、「生活世界の安全保障」系列の中に「NPOインターンシップ」が配置されているわけですが、今まで私自身、漠然とした関連ぐらいしか考えていませんでした。

つまり、系列の3テーマと申しますが、まず「日常生活の安全保障」、それから「グローバル化の中の安全」、それから「安全の基礎条件」ということですので、NPOというのは、例えば環境問題のようなリスクに対して、市民が安全の維持や回復をしようするもの、あるいは障害者や高齢者のような社会的弱者の安全のための支援をするものというぐらいで一般的に位置づけるのかなというぐらいの理解でしたが、この機会ですので、もう少しまじめに考えました。

これは系列案内に載っています「生活世界の安全保障」の科目一覧ですが、さきほどの三つのテーマがあります。

先ほどの三つのテーマと実習で構成されているということになっていますが、系列案内の中にこんな図がありました。科目名と科目のキーワードを、横軸がパーソナルとストラクチャル、構造的か個人的か。縦軸がフィジカルとメタフィジカル。もう一つ軸があって3軸になっていて、ローカルとグローバルということで、8象限というところにキーワードを配置するという図があり

報告の内容

1. 科目の沿革・概要 (スライド3~9)
2. 本年度の特徴・新たな取り組み (スライド10~13)
3. 本年度の成果 (スライド14~17)
4. 今後の課題 (スライド18~21)

「生活世界の安全保障」系列のねらいと「NPOインターンシップ」

系列の3テーマ(「系列案内」より)

- 日常生活の安全保障
- グローバリゼーションの中の安全
- 安全の基礎条件

↓
安全維持・回復、社会的弱者支援の
具体的取り組みとしてNPOを知る

「生活世界の安全保障」科目一覧 (2008年度開講)

LA科目名	
日常生活の安全保障	生活の中の危険と安全
グローバル化の中の安全	情報社会の安全保障 リスクの社会史
安全の基礎条件	平和と暴力 人間の安全保障
演習・実習	社会技術革新学概論
	現代物質文明の歴史 ゲム時代の健康管理
	生活環境と健康 社会的弱者の存在論
	歴史のなかの危機とその克服
	教育における危機
	NPOインターンシップ
	リスク管理

ます。

これを見てお気付きのように、ここの象限が割と空いているわけですね、パーソナルでローカルでフィジカルな部分というところ。ただ、実際のリスクの認知というのは、当然個人的なものですし、ローカルに表れますし、身体的、具体的なものとして表れるというところで、これはやはり実習なり、体験の学習なりで知っていった、ほかの領域に結び付けるというのが、NPOインターンシップの役割かなと考えました。

1960年代の"The personal is political" (個人的なことは政治的である) というのがラディカルフェミニズムの標語であります。その弁でいきますと、パーソナルなことはストラクチャーであり、ローカルなことはグローバルであり、フィジカルなことはメタフィジカルであるということを得体してもらえたらいいのかなと。ちょっと後付けっぽいですが、そんな位置付けなのかなというように考えてみました。

「NPOインターンシップ」の実習は2003年から行われていますので、その沿革を申し上げます。

2003年度からコアクラスターの「コミュニティ・ボランティア」コースが行われて、こういう経緯もあって、地域コミュニティ活動のNPOが中心というようになっています。「国際協力のNPO、NGOはないのですか」というご意見を学生からいただいたのですが、2006年度からはコアクラスター「共生社会とコミュニケーション」コース。そして今年度からは文理融合リベラルアーツの「生活世界の安全保障」に位置づいたという形になっております。

シラバスから引用という形で、主題と目標を示しておきます。個条書きにすると3点になるのかなと思います。赤字のところですが、一つ目が、NPOの役割や課題を学ぶ。二つ目が、社会的活動と大学での学習・研究の関連を考える。三つ目が、社会と自身のかかわりを考える。この三つぐらいの目標があると考えております。これに従って、後でこの成果を考えたいと思っております。

ただ、今のシラバスではあまりに抽象的なので、特に実際には1年生のボランティア体験という内容になりますので、「ボランティアをやってみたい人は集まってみませんか」というような呼びかけを、学生へのメッセージとしてはしました。

科目の概要ということですが、先ほど申しましたように、受講条件として、講義「NPO入門」を履修する、これは以前からの踏襲です。受講条件は、学年は学部生全員対象ということですね。

単位認定は、通年2単位で、60時間以上の実習。昨年度までは100時間だったのですが、私は全学科目のインターンシップというも担当しているのですが、これが60時間なので、合わせようということで、今年から60時間にしました。

それから中間報告会、最終報告会での報告、実習日誌等の提出、これが2単位の認定の要件になっております。

以上が沿革と概要で、ここから本年度の特徴ということで、今年を受講生15名が単位取得見込者。最初実習を始めたのが21名ですから、言葉は悪いのですが、7割強の歩留まりということで、これは例年こんな感じなのかなというように聞いています。

内訳は、1年生が10名、2年生が4名、3年生が1名ということで、1年生中心になっています。ボランティア体験というような感じで受講されている方が多いのかなと思います。

団体については、報告書の17ページと巻末の授業資料の259ページ以降にありますので、ご参照ください。

協力団体は8団体で、実際に実習に行ったのは6団体でした。環境保護やホームレス支援、まちづくり、子育て等々に、先ほど申しましたように、地域で取り組む団体というのが中心になっております。

2008年度の履修の流れ、これも報告書の16ページ、253ページ以降に詳しく掲載されていますので、ご覧ください。

5月にオリエンテーションをやりまして、団体と学生の希望とのマッチングをします。6月から実習開始。5月、6月の段階で志望理由書、年間の目標というのを立ててもらいます。7、8、9、

生活世界の安全保障

「NPOインターンシップ」の沿革

(報告書p2参照)

- 2003年度～ コア・クラスター
「コミュニティ・ボランティア」コース
- 2006年度～ コア・クラスター
「共生社会とコミュニケーション」コース
- 2008年度～ 文理融合リベラルアーツ
「生活世界の安全保障」科目

主題と目標

(2008年度シラバスより)

- NPOでインターンシップ(体験就業)を行う。福祉、教育、環境、国際協力、文化などのさまざまな活動に参加することにより、NPOの役割や課題を学ぶ、また、社会的活動と大学での学習・研究の関連や、社会と自身のかかわりを考える契機とする。

学生へのメッセージ

(シラバスより抜粋)

- 「ボランティアに関心はあるが、どうはじめていいかわかりません」
- 「障害児教育って、大変なんだろうなー」
- 「将来NPOで働くことも考えているんだけど、お給料ってちゃんともらえるの？」
- 「利益を出さないって、なんかあやしくない？」
- 「このままでは地球環境が大変なことになる。私がなんとかしなければ！！」
- 「ホームレス支援ってなにをやるの？」
- どれかがあてはまった方、オリエンテーションにどうぞ。

科目概要

- 受講条件
1～4年対象
講義「NPO入門」の履修
- 単位認定要件(通年2単位)
・60時間以上の実習
(昨年度まで100時間)
・中間報告会、最終報告会での報告
・実習日誌・実習レポート等の提出

本年度の受講生と協力団体

受講生の特徴

- 2008年度の単位取得見込者: 15名
- 内訳: 1年10名、2年4名、3年1名
- 1年生主体の「ボランティア体験」

団体の特徴(報告書p17-, p259-参照)

- 協力団体数: 8団体(実習は6団体)
- 環境保護、ホームレス支援、まちづくり、子育てなどに地域で取り組む団体中心

2008年度 履修の流れ

(報告書p16, p253-参照)

月	行事名等	内容
5	オリエンテーション	学生の希望とのマッチング
6	実習開始	志望理由書作成
7	目標管理シート提出	6-7月期の振り返り/夏休みの目標設定、計画立案
8	(大学休業期間)	実習
9	中間報告会(30日)	夏休みの振り返り/10-12月期の目標設定、計画立案
10	目標管理シート提出	
10		実習
11		実習
12	実習終了	日誌等提出
1	最終報告会(10日)	

10、11、12月まで実習がありまして、1月に最終報告会。その間に、9月末、夏休みの終わりに中間報告会というのを設けました。

今年の特徴としては、この7カ月間を3期に分けまして、期ごとに目標管理シートというのを提出してもらいました。この様式は、報告書の16ページ以降が学生の報告書になっていますが、志望理由という形で年間の目標と活動の振り返りと成果と課題という構成になっているのですが、これは各期ごとに、例えば7月でしたら6、7月を振り返って、8、9月の目標を設定して計画立案するという形の事を期ごとにやりました。

これが次のスライドの「本年度の新たな取り組み(1) 目標管理シートの導入」ということです。年度初めに志望理由で、これが年間の目標設定で、3期に分けて、目標設定、自己評価を行ったと。

もう一つは、目標設定と自己評価は実習団体の担当者に、読んでいただいて、学生、NPO、教員が目標と成果・課題を共有するという事を目指しました。

1月の最終報告書の形式も、21ページ以降を見ていただきますと書いてあります。つまり、目標を設定して、それが達成できたかどうかを自己評価するという形式で作りました。

新たな取り組みのもう一つは、NPOとの連携強化と学生の交流促進。連携強化は、実習団体からのゲストスピーチという形で、これ自体も連携強化の一例なのですが、本年度から新たに子育て支援の団体である「グランマ富士見台」というところに加わってもらったのですが、こちらを中間報告会に招くとか、講義の方にも協力団体からゲストスピーカーをお招きしました。

それから実習生同士の交流の促進ということで、実習生のメーリングリストというのを新たに設置しまして、OGというのは昨年までNPOインターンシップを履修していた学生なのですが、これはNPO入門で実習の報告をしてもらったのですが、こういう学生にも登録してもらいました。

そのメーリングリストで、お茶大の中で、自主企画として講演会を行うということも支援するとともに、メーリングリストで告知するという事もやりました。

以上が今年の取り組みの特徴で、ここから今年の成果ということで、ご報告したいと思います。

授業アンケートは、通常の授業アンケートは「板書が見えますか」というような項目が多いので、実習・演習についてはやらないということなのですが、共通しそうな、ここにある「意欲」「興味・関心」など、一般的なものに関しては共通してやれると考えて独自に、実習で聞いてもよさそうな項目を追加して、1月の成果報告会でやってみました。

これを見てお分かりのように、特に高かったのは「内容への興味・関心」というのが高かったのです。「NPOインターンシップ」という科目に集まっている学生がNPOへの興味・関心が高いのは、ある意味で当たり前のような気もするのですが、前期の私が担当しています「NPO入門」という講義の方は、約半分が実習生で、約半分が実習に行かない学生なのですが、これも、やはりそうはいってもNPOに関心がある学生が集まっているとは思いますが、「興味・関心」のところは平均的な値で、特に高いわけではないということなので、やはり実習科目というのは、興味・関心の喚起というところでは効果があるのかなというように推察できます。ただし、この「興味・関心」の中には、NPOの活動に興味・関心を持ったということなので、これが大学での学習や研究に結び付くかどうかというのが課題になるのかなと考えます。

続きまして、報告書の21ページから学生の報告があるのですが、その中で特徴的な感想を三つの分野に分けて、成果として挙げてみました。

一つは、先ほどの8象限の図でもありましたが、個人的なことと思われていることでも社会的な問題なのだという事に対する気付きというのがかなりありました。例えばホームレスは自己責任など、そういう偏見もあったけれども、そういう事を再度考えるようになったとか、個別の相談をしているような、臨床的なことをやっているような団体なのだけれども、メンバーは社会を変えていきたいという強い思いがあったとか、子育て支援をやっているのだけれども、女性が働けるような社会にしたいなど、そのような社会的な視点というのにかなり気付くという場面があったようです。

NPOの現状と課題というところで、これは「NPO入門」の講義の方で、かなり問題にしているのもあると思うのですが、非営利とはいえ財政が重要だとか、イベントの参加の受付などをやっていたら「何これ、お金取るの?」とか、すぐ言われたというようなことがあったみたいで、無料で当然と思っている人もいるけれども、実際には予算の捻出が大変なのだなということが分かったとか、それは同時に、単なるボランティアとは違って、組織的にやって法人格も取ってや

**本年度の新たな取り組み(1)
目標管理シートの導入**

(報告書p21-参照)

- 年度初めに志望理由書(年間の目標設定)
- 実習を3期に分け、各期首に目標設定、期末に自己評価。
- 目標設定と自己評価は実習団体の担当者に点検していただき、学生-NPO-教員が目標と成果・課題を共有する。
- 1月の最終報告書も、「目標が達成できたか」「成果と課題は何か」の自己評価書とする。

**本年度の新たな取り組み(2)
NPOとの連携強化・学生の交流促進**

- 実習団体からのゲストスピーチ
中間報告会(9月):
 グランマ富士見台(本年度から実習団体)
 講義「NPO入門」にも4団体
- 実習生交流の促進
実習生メーリングリストの設置。OGも登録。
- 実習生自主企画の支援
お茶大内での講演会開催など。MLでも告知。

**成果：関心喚起に成功?
—授業アンケートより—**

	NPOインターンシップ	NPO入門(前期講義)	前期全学年平均
学生の意欲度	4.0	3.9	3.6
内容への興味・関心	4.8	4.1	3.8
授業の満足度	4.4	4.2	3.8
目標の達成度	4.1	3.9	3.7
学習への有益度	4.3	4.2	3.9

**成果：学生の感想より
(1)「個人的なことは社会的なこと」**

- ホームレス状態の経験者と直接話せ、偏見がなくなった。「自己責任」とは何か考えさせられた。
- 子どもの個別相談をしている団体だが、「社会を変えていきたい」という信念を持って活動している。
- 子育て支援団体の「女性が働ける環境にしたい」という信念を知った。

**成果：学生の感想より
(2)NPOの課題**

- 「非営利」とはいえ財政が重要であると痛感。
- イベントの参加者には「無料で当然」と思っている人もいるが、実際には予算の捻出が大変。
- 単なるボランティアと違ってNPOには社会的責任が生ずることを知った。
- 行政や学校、他団体との連携の難しさを知った。

ているということですから、社会的な責任が生ずるということも知ったと。あるいは行政との関係などは難しいということも分かったというような、現状と課題を知るというような成果があったと思います。

3点目、自分と社会のかかわりを見直すということで、単位のためにしてはなかなか大変なのですが、それなしで「自分は実習団体の人たちのように積極的に活動できるのか」と自問自答したとか、さまざまな職種や年齢の人が背広姿で活動に参加するのを見て、将来について考えたとか、自分たちで運営した経験とか、障害者と社会とのかかわりを見直したというようなこと。

このコメントは、このままというよりも、幾つかの代表的なものを適当につぎ合わせて作ったのですが、こういったことが報告書の中身に書かれておりますので、またお読みになっていただけたらと思います。

以上が成果なのですが、課題もいろいろあります。まず、この表は、文理融合リベラルアーツとしては大変まずいのですが、理系の参加がなかなか難しいというか、偏りがあるということです。過去の最終報告会の参加者、これはほぼ単位取得者と考えてよいと思うのですが、過去3年間40名のうち、理学部1名ということで、生活科学部の人間・環境科学科の方などが、特に環境問題などに関心を持って参加するということはあるのですが、先ほども理学部の理系の学生は、一生懸命専門の単位を取るというような話がありましたが、特に実習となると、なかなか難しいのかなということが課題として挙げられます。

2点目は、これは米澤さんの報告でもあったのですが、学生の中での差異といいますが、いろいろな考え方があるということです。先に下の方を見ていただきたいのですが、高校などでも最近、ボランティアが単位化されたり、あるいは大学でもボランティアが推薦入試の決め手になるとか、そういうことが非常に多いので、よく問題になることですが、そうした自発的活動というのが単位、これは一種の義務ですよね。強く言えば強制というものになるという矛盾があるわけですが、そういうことが、やはりこの科目にもあるかなと思います。

例えば中間報告会とか、目標管理シートとか、実習以外のことをやっていて、大変よかったという意見があれば、それが負担だったという意見もあるし、報告会でもっと意見交換したいという意見があれば、土曜日にやったのですが、そもそも報告書があるのだから、ほかの受講生の話をなぜ土曜日出て行って聞かなければいけないのだとか、そもそも100時間以上、いつの間にかやっていたという学生もいれば、60時間、なかなか苦しいと。先ほど米澤さんの報告を聞いていて、60時間終わったら、やっと伸び伸び活動できたというのを聞いて、やはりこれは難しいなと思いました。それは分かる気もします。なかなか難しい問題があるなと思いました。

NPOと学生と、そういうしんどい状況というのを共有できるのかなと。一応、先ほど目標管理シートというのをやっているのですが、NPO側も大変忙しいので、なかなか日常的な情報交流というのは難しいかなという課題があると思います。

もう一つは、1年生主体のインターンシップということなので、他のLAをはじめとした科目や専門との連携づけというのが難しいと。大学での学習・研究に、今日は2年生の米澤さんの報告がありましたが、将来の目標も決まっています、専攻も決まっています、それに実習を位置付けるという学生もいれば、本当に1年生で入ってきて、こんなこともあるのかと。それ自体は大変良いことなのですが、そういう学生もいるということで、連携・関係づけというのが課題になるだろうと。

これと重なるのですが、予備知識が全くない段階、「NPOって何の略？」という段階から、実習団体とマッチングして、志望理由書を書きなさいというのを、やってもらうわけですが、これをもう少し丁寧にやる必要があるのかなと。その後続けていくしんどさということとの関係も含めて、この辺が課題かなと思っています。

今後の方向性としては4点考えています。一つ目は「学生の運営への参加」ということで、受講生自体もそうなのですが、先ほども、OGにメーリングリストに登録してもらって授業に協力してもらいましたという話をしましたが、それを強化したいと思っています。僕をはじめとして、先ほどのマッチングの難しさというところとも関係するのですが、こういう団体ですと報告しても、やはり1年生にとっては「何かおっちゃんがかしゃべっている」ということですから、実感が持てるかという、なかなか難しいと。1学年上のお姉さんが、「去年、私、こういうことをやりました」と説明すると、もし同じような内容だとしても、授業などをやっても全然違うのです。そういうところで協力してもらったり、あるいは報告会や講義の方でファシリテーター的に協力

成果:学生の感想より
(3)自分と社会のかかわりを見直す

- 授業でなくても自分は実習団体の人たちのように積極的に活動できるのか?と自問した。
- さまざまな職種・年齢の人と一緒に活動でき、将来について考えた。
- 自分たちで運営した講演会で、海外事情などの話を聞くことができた。
- 障害者と社会の関わりについて再認識した。

(報告書p21-68参照)

課題(1) 学部の偏り
(学部別最終報告会参加者数)

年度	文教育学部	生活科学部	理学部
2006	12名	7名	1名
2007	3名	2名	0名
2008	11名	4名	0名

課題(2) 学生間の差異

- 負担感・積極性の落差
例1:「中間報告会・目標管理シートがあったのでシャキッとできた」vs.「報告会やシートが負担」
例2:「報告会で他の受講生の活動が知れてよかった」/「もっと意見交換したい」vs.「他の受講生の話を聞く必要を感じない」
- 「ボランティア(自発的活動)」が「単位(卒業要件)」になることの難しさ

課題(3) 「1年生主体」のインターンシップの難しさ

- 他の科目や専門との連携・関係づけ
大学での学習・研究に具体的に結びつけている学生もいる一方、一般的に社会問題を認識したにとどまる学生も。
- 予備知識がない段階での実習団体とのマッチング、目標設定の難しさ

今後の方向性

学生の運営への参加 今年度履修生に呼びかけ、オリエンテーションでの実習団体紹介、報告会や「NPO入門」でのファシリテーターなどを担当してもらおう。

国際協力NGO/NPOの開拓

リベラルアーツ他科目や専門教育と関連づけた実習設定

+「教居の低さ」との両立

してもらおうとか、先ほど聞いて私も驚くとともに、何というか、大変じーンとしたのですが、既に米澤さんが、4人のグループで実習をやっている、しんどい子がいると励ましあって実習を終えたということで、そういうことをやってくれていたのだなど非常に感心したのですが、そういう相談に乗るといふ役割もしていただけたなと思います。

先ほど申しましたように、これはコミュニティ・ボランティアというところから始まっているので、国際協力のNGO・NPOの開拓というのは、グローバル文化学環の方とも相談させていただいて、開拓したいなど。それから、今日の前半の学生の報告でも、人間の安全保障の方で、国際協力のNGOの話などを聞いて、ご自身もボランティアをやっていたらというお話がありましたので、そういうところと連携していく。

それを含めて、三つ目、リベラルアーツのほかの科目や専門教育と関連づけた実習設定というのをやりたいのですが、それとプラスして、やはり1年生が主体の対象になりますので、敷居の低さというところと両立したいと考えております。



お茶の水女子大学
Ochanomizu University